

かとう  
加藤

よしあき  
嘉明(1563~1631)



松山城主。三河国幡豆郡永良郷(現、愛知県西尾市)出身。父に従って近江(現、滋賀県)に行き羽柴(豊臣)秀吉に仕え、養子・秀勝に付属されたが、天正4(1576)年の播磨征伐を機に秀吉の直属となり、天正11(1583)年の賤ヶ岳の戦いで七本槍の一人として活躍した。文禄4(1595)年、松前城主となり、6万石を領して、伊予に入国した。秀吉の没後は徳川家康に接近し、関ヶ原の戦いの功で20万石に加増され、藤堂高虎と伊予国を二分した。その後、勝山の地に松山城を築城し、城下町の町割を行うとともに、重信川や石手川の改修を行い、内政の充実を図り、領内の発展に力を注いだ。

## 略歴

永禄6(1563)年	三河国幡豆郡永良郷に生まれる。
天正4(1576)年	播磨征伐を機に秀吉の直属となる。
天正11(1583)年4月	賤ヶ岳の戦いにおいて一番槍の功名
天正14(1586)年11月	淡路国(現、兵庫県)志智城主となり1万5千石の領地を受ける。
天正20・文禄元(1592)年	朝鮮出兵(文禄の役)に参陣
文禄4(1595)年7月21日	松前6万石城主となる。
慶長2(1597)年	再度朝鮮出兵(慶長の役)に参陣
慶長5(1600)年	関ヶ原の戦いに参陣の後、その功により松前20万石の大名となる。
慶長7(1602)年	松山城築城に着手
寛永4(1627)年2月	陸奥国会津若松(現、福島県)に領地替え
寛永8(1631)年9月12日	江戸屋敷において病気のため69歳で永眠 江戸麻布善福寺に葬られ、現墓所は京都府京都市東山区円山町の東大谷墓地にある。

(肖像画：藤栄神社蔵)

### 〈関連図書〉

- ・伊予史談会『加藤嘉明公』 松山市役所 1930年
- ・松山城編集委員会『松山城』 松山市役所 1970年
- ・須田武男『豊臣時代の伊豫領主の史料研究』 愛媛県教育公務員弘済会 1975年
- ・鎌田定雄『予州松山城築城異聞』 東道後産業 1981年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 近世上』 愛媛県 1986年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・徳永真一郎『賤ヶ岳七本槍』 PHP研究所 1992年
- ・景浦勉『松山藩政史の研究』 関奉仕財団 1994年
- ・井上宗和『四国の城と城下町』 愛媛新聞社 1994年
- ・『県民メモリアルホール人物探訪 第1集』 愛媛県生涯学習センター 1997年
- ・日下部正盛『加藤嘉明の戦略-松山城に囚んで-』 日下部正盛 2000年

〈ゆかりのある場所〉…(P275, 47~48)

〈関連施設〉…松山城

〒790-0008 愛媛県松山市丸之内1 TEL: 089-948-6556(松山市観光・国際交流課)

愛媛県歴史文化博物館

〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町4丁目11番地2 TEL: 0894-62-6222